

江差町立南が丘小学校

指定年度：H25～

児童数：66名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 校務分掌を工夫した組織体制の確立

～若手教員及び中堅教員の育成に向けた組織的な取組（組織力の強化）～

若手教員の育成に向けて、若手教員が校務分掌の責任ある役割を担い、中堅段階教員がサポートできる体制を整備した。その結果、中堅教員が若手教員に積極的に関わるようになり、中堅教員に学校全体を見る力や若手教員を育成しようとする意識が高まるとともに、若手教員は不安なく業務を進めることができるようになった。

また、これまでメンターとメンティーのペアで行っていた取組を、指導サポートチームとメンティーチームで行うなど、チームで対応するようにした。その結果、教員間の関わり合いが増え、学校全体の組織体制の確立につながった。

② 温かい人間関係を基盤とした職員室づくり

～温かい人間関係を基盤とした教え合える職場環境（コミュニケーション）～

勤務時間内に業務を終えることを意識するあまり、時間に追われ、教職員間のコミュニケーションが不足しがちになってきていたため、温かい人間関係を基盤とした職員室づくりと情報共有の徹底を目指し、互いにコミュニケーションを図りながら教材研究を行ったり、職員同士が情報交換したりできる時間を確保した。その結果、職員室で授業づくりについて話し合ったり、子どもたちの取組のよさを認め合ったりするなど、教員間の温かい人間関係の構築につながった。

③ 教職員や保護者、地域住民との目的・目標・方策の共有化

～教職員の学校運営参画意識の高揚と地域・保護者との連携（教育理念や経営方針の浸透）～

教職員が本音で語り合える学校評価会議（通称 MKK）を組織し、学校運営上の課題の他、本校の子どもに必要な資質・能力やその育成に向けた教育課程上のポイント等について協議した。その結果、教職員間に参画意識が高まり、学校改善に向けて同じ意識で取り組むことができた。

学校運営協議会においては、目指す子どもの姿や学校の課題、今後の方策等について具体的に示し、保護者や地域の方々と熟議した。その結果、共通した目的意識の下、保護者、地域と協力した学校経営が可能になった。



【学校運営協議会における熟議の様子】

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

□ 校務分掌を工夫した組織体制の確立

外部評価（保護者アンケート）における肯定的評価は97%であり、学校の組織的な取組が保護者にまで浸透したと考えている。

□ 教職員や保護者、地域住民との目的・目標・方策の共有化

外部評価（保護者アンケート）における肯定的評価は100%であり、学校の状況をきめ細かに発信してきたことと熟議を重ねてきたことの成果であると考えている。

■ 温かい人間関係を基盤とした職員室づくり

教職員が、互いにコミュニケーションを図りながら教材研究を行ったり、職員同士が相談をしたりできる時間を確保することができたが、内部評価（教職員自己評価）における「教職員が新しい知識やスキルを学ぶ環境づくり」の肯定的評価は64.3%であり、教職員の資質・能力の向上に係る取組を一層充実させる必要がある。